

携帯型発作時記録心電図検査

概要

日常生活の中での自覚症状（動悸・胸痛など）が不整脈や狭心症によるものかどうかを調べる検査です。

検査方法

患者様に一定期間（最長 1 カ月）、携帯心電計をお貸ししますので、日常生活の中で自覚症状（動悸・胸痛など）が現れた際に、ご自身で心電図の記録（1 回 30 秒間）を行っていただきます。また、行動記録カードに心電図を記録した際の自覚症状、日時・時間、行動を記入していただきます。

※検査予約時に携帯心電計の使い方、行動記録カード・注意事項の説明を行います。

検査で分かること

症状が現れた際にご自身で心電図を記録することができるため、症状の頻度が少ない場合や、持続時間の短い脈の乱れや狭心症発作など、病院で行う心電図検査など短時間の記録の検査ではとらえることが難しい不整脈や心電図変化を検出することに有用な検査です。

1. 自覚症状と心電図変化の関係
2. 不整脈の種類
3. 狭心症の有無



注意事項

- ・日常生活の中での検査のため、機器を持ち運びしていただいて構いませんが、落下など強い衝撃を与えないようご注意ください。
- ・機器が水に濡れると故障してしまうため、ご注意ください。

所要時間

約 15 分程度（機器の説明） 日常生活の中で自覚症状があった際に記録



よくある質問

Q：普通の心電図とは、何が違うのですか？

A：病院で行う心電図検査（安静時 12 誘導心電図）は記録時間が短いため、胸痛発作や動悸で受診された場合でも心電図で異常が現れないことがあります。この検査は症状が出現した時の心電図を記録できるため、病院の検査では現れなかった異常を検出できる可能性があります。しかし、病院で行う心電図検査と比べると、簡単な心電図波形のみの記録となります。

Q：心電図記録は難しくありませんか？

A：検査説明後、ご自身で記録の練習を行っていただきます。記録方法は機器に指と胸を当て、ボタンを押すだけで記録されるため、それほど難しくありません。使い方を記載した説明書を機器と一緒にお渡ししますので、説明書を参照しながら記録を行っていただければ問題ありません。

Q：お風呂で使用できますか？

A：機器は耐水性ではありませんので、入浴中やシャワー中は記録を行うことができません。入浴中やシャワー中に症状が現れた場合は、体の水分をタオルで拭き取ってから記録を行ってください。

Q：胸以外で記録できますか？

A：胸以外に腕でも記録可能です。外出先など胸での記録が難しい場合には腕に当てて記録していただいても構いませんが、胸で記録した場合と比較して波形が小さくなりますので、できる限り胸での記録をお願いしています。